ごぞんじですか
青年学級を
‖今年の青年学級は‖

青年学級というものがあることを知らない人が、たくさんあると聞いて、驚き且吾々の用意の足りなかつたことを痛感して恐縮している次第です。

青年学級は青年学級振興法という法律に基いて、市町村が開設する。勤労青年のための修養機関です。この法律が制定されたのは昭和二十八年八月ですが、青年学級が事実上あつたのは昭和二十四五年頃からのことです。

青年学級は青年（男女）の希望によつて開設され、青年の希望によつて科目が選定され、青年の出席し易い日が選ばれて授業が行われるというように極めて青年の自主性が尊重されています。

富士市では富士地域、田子浦地域、岩松地域三カ所に開設されていますが三カ所共、毎年五十人から六十人位の受講者がありました。今年は青年団が青年学級の性格をよく理解して、「青年学級は吾々のものだ」「他人の仕事を手伝うのとは性質がちがう」と考えるようになつて、全面的に力を打ち込もうという態度をとられました。そのために三地域ともすばらしい勢で今年は発足しました。

田子浦では受講者八十名、富士では百三十七名、岩松では二百七十名という盛況で、当初予算では到底やつて行けないと、嬉しい悲鳴をあげている次第です。

当市の青年学級が斯くの如き飛躍をなしたのは、青年団が青年団の名に立てこもることをしないで、広くその門を開き、青年学級をそつくりそのまま団の事業の中の一大事業として取り入れた為で、青年団と青年学級との関係が理想の姿にまで発展したのだと考えられます。

富士地域の青年団が「宣伝は吾々が引取ける」といつて何十枚かのポスターを作つて各所にはり出し、又或幹部が自家用のダットサンを提供し、幹部がこれに乗つて、夕刻から夜にかけて市内で街頭宣伝を二日も行つたことや田子浦青年団が「よし、これから後のことは青年団が引きうける」といつて全責任を負うことを買つて出たことなど、青年学級をここまでもつて来た原因だと信ぜられます。その結果は青年の素質の向上となり、例えば、ヒロポン禍撲滅の如きものに迄間接に大きな効果をもたらしますし、色々の面から青年の将来を幸福にするわけで、誠に喜びに堪えません。

今の状態が来年三月まで続いて全員が修了し得るようにと念願します。

（教育委員会）

旧軍人軍属恩給扶助料
請求は早目に

恩給法の改正によりまして、旧軍人軍属の恩給及び扶助料が、昭和二十八年四月より支給されることになつたことは御存じのはずで、多くの方々はすでに支給されておりますが、支給されるためには、自分で請求手続をしなければなりませんので、左記に該当すると思われる方は勿論、はつきりしない方でも一人決めしないでできるだけ早く市役所厚生課の係に御相談して下さい。

受給資格者

普通恩給　終戦以前に普通恩給を受けた方、及び引続き、（十二年下士官以下）十三年（准士官以上）の実在職した、旧軍人軍属（受給年令（四五才以上）に達しない方でも手続きを行つて下さい

一時恩給　引続く在職期間が七年以上十二年（十三年）未満の旧軍人軍属）

傷病恩給　四款症以上の傷病を受けた旧軍人軍属

普通扶助料　普通恩給の受給資格者が公務によらない傷病に依り死亡した場合その遺族（妻、二十才未満の子、父母、祖父母）

一時扶助料　一時恩給の受給資格者が公務によらない傷病により死亡した場合その遺族（妻、子、父母、祖父母）

新作落語

完納
「もへじ長屋第一編」

隣組常会は御屋敷町地帯より下町の方がどうも意見が活潑の様で、毎日毎日顔を逢わせている御連中だけに遠慮が御座いません。

家主「エツヘン突然だが、少しばかり相談事が出来たので皆んなに集まつてもらつた訳だが…実は世間では家の長屋を、へのへのもへじ長屋と呼ぶが、どうも面白くない、そこで口惜しから、名誉回復の手段として「どうだ、これを見ろ」と言う様な事をして見たい、それについて思い出したのは、近頃世間で「納税組合」と云つて騒いでいる様だから、家の長屋がまつ先に作つて世間の人をアツと云わせてやりたいがどうだ」ひようきん者の八さんが黙つていない。八「成程ね、世間の人をアツと云わせたいね、……ようしわきやない、そんなら長屋へ火を付けちやいましよう」家主「そんな無茶しちや困るよ、ボロ家でも、わたしの持ち物だ、お前さんだつて居所が無くなつたら困るだろう、そんな事じやない、つまり納税組合を作ることだよ」八「わかつた、作つちやいましよう、どうせこうなれば、破れかぶれだ、うんと作つてしこたま食いやしよう」家主「何を云つているんだね八さん、食べものの事じやない、税金のことだよ」

これを聞いた途端に傍に居た虎さんが唸り出した、虎「何だつて家主さん…税金だつて……そうか野郎、ふざけやがつてウーン」家主「おい〳〵虎さん、何を唸つている、税金と云つたからつて、そんなに顔色をかえて怒ることもあるまい」虎「何を！てやがんでい、税金と聞いちや俺らあな、飛んび上らあ、そうじやねえか、夕べもよ！かかあの云うことが第一シヤクに障らあね」家主「ひどく怒つているじやないか、どう云う訳か話してごらんよ」虎「話せつてやあ話すがなうちのかかあの云う事が気に喰わにやあ「おまはんの様にショーチウばつかり飲むから税金が納まんないだよつ！」だつてさ……フーン聞いて呆氣れらあ、だから俺も云つてやつた「何云つてやがんだい、ショーチウは飲めば酔払うだろう、税金は納めて酔払うけえ」かかあが「ろくでなし野郎つ」つてゆうから俺が「カボチヤ婆」と言つたらね「くやしいツ」つて、虎さん話しに熱中して立上る虎「ここ……こうして、こう来るからね默つちや居られない、ここが腕の見せどこだ……ここうして、こうして、ヤツと！ばかり立廻り……家主「待つた〳〵危い、解つた解つたよ落付きな、あゝびつくりした何んだい其の「カボチヤ婆」と云うのは」八「顔中デコボコして真ん中にホツタ（鼻を指す）がある」家主「おかみさんをそんなにコキ降す奴があるかい、まあお前さんが酔払つてばかり居るからいけないんだ、適度に飲んで、少しは納税貯金でもすればいゝんだ」虎「適度ならいいんだね、一升位は？」家主「やんなつちやうねお前は……話しを続けよう……で納税組合は毎月其の人に適した金額の貯金をして、其の中から市税も納めたい、自分の蓄へにもしたりする、必要な時は何時でも引出せるし、市役所から褒美の金も出る、第一納税に便利で楽なんだよ」向い側の七さん突然声を出した　七「それやいゝ、褒美が貰へるなら、すぐやろうじやないか、幾ら呉れるんだい、家主さん掛合つて呉れ」家主「氣が早いね納めてから後だよ、それからと……おや、鹿十は默つているが、意見はどうだ」鹿十「えゝやりますよ、やりますともさこれが、やらずに居らりよおかつてんだ、へしつかりせよと抱き起こし〳〵……」家主「やだね、この人は…戦友を歌い出したよ」鹿十「やりますよ——褒美さえ貰やあ税金なんかに用はねえ」

この時、家主は〇〇業組合の帳付けだとか云う、たま子さんの方え視線を向けた。四十がらみだと云うが商売柄仲々あでやかだ　家主「たま子さん、どう思う」たま子「ホツといて！わてホツといて！いいのよ！ねツ！」家主「どうしたんだ訳ありか？」たま子「わてねゞお給金からねツ毎月納めているのよ、ねツ！ねツ！いゝでしようねツ！ねーツ」家主「ブルブルオツホツホーあゝ氣持が悪いでも、お前さん婦人用の自転車だつて、あるんぢやないか、除け者にならんで仲間入りしときな」たま子「おゝきにね」家主は一同を見渡した　家主「さあ後は、鶴さんも別に、反対はない様だな、それならば其処にある市役所の「納税組合のおすすめ」と言うのを、一つ声のいゝ所で鶴さん読んで呉れないか」鶴「読めねえ！」家主「何い？」鶴「読めねえ！昼間勉強したから！夜は読めねえ！」八「そんな因業ゆわんで続めよ、鶴」鶴「それでは鶴の一声！読むツ！……えーえーえーと、エヘン」八「やい鶴ツ！何がエー、エーだ拡声器のテストじやないぞエー、エー今日は晴天なりかフーン」鶴さん徐ろに胸をなぜながら　鶴「落付け、落付け、エーエーといつ、いつせいに（一齊に）かんおさめ（完納＝棺納）をめざし、……いつせいに棺納をめざし……えツ大変だ、家主さん、またどこかで転覆した」家主「大変だ、大変とは大いに変ると書く、中位に見ても変だと思う、どれ見せな、なに〳〵ああこれか、棺納めと読むのではない完納だ」鶴「あーそうか、それで安心した、おどかすない!!馬鹿野郎」家主「鶴さん〳〵ちよいと待ちな、お前さんのポケツトから赤いすじの付いた紙がはみ出ているぜ、何んだいそれは」鶴「アツしまつた、督促状だ、かかあのあまた俺に付文しやがつた……焼いちまえばいいに」家主「とんでもない焼いたら余計滞納するじやないか、そんな心掛けでいる様じや……余程溜つている」家主「鶴さん〳〵ちよいねえが、ざつと五十枚ばかり……かかあの奴がね、障子紙の穴張りに丁度いいと云つて丹精しているんで……市役所でも、今少し取纏めて呉れりやいいのに」家主「困つた人達だね、やれ〳〵督促だ、滞納整理だ差押へだ、何と莫大な貰い金を失うことだろうな……それがみんな私達市民に返つて来る」この時、驚いた様に七さん声を掛けた七「へえ家主さんの所へも帰つて来ますが」家主「帰つて来るとも」七「へえ……そうかねえ返信料を出さなくてもねえこいつはびつくりだ」家主「何も驚かなくてもいいよ、そんな事では富士市の前途は真つ暗だ」八「いや待つた待つた、飛んでもはつぷん、チヤラ〳〵だ、真つ暗ぢやありませんよ富士市はこの頃、街燈が増えました」虎「家主さんよお、役所ぢや、そんな紙切れ一枚を五百円だの千円で売り込んだら、うんと儲かるずらなあ…、そんなに金を集めて誰が飲むんだ？」家主「やだねえ、お前さん飲むことばつかり言つているよ」虎「フーン余り儲り過ぎて使いどこが無いもんだから……やれ学校だの……やれ道普請だとの……大それた考へを起こして」家主「これこれ虎さん待ちなよ、よつく考へて見な此の世の中は自分一人の力だけで行けるものでは、ないんだよ、農家あり、薪屋あり、大工あり、畳屋あり、皆んながお互いに連りあつてゐるからこそ、自分の慣れた専業に精出せば、明るい電燈の下でおまんまが食べる」六「ナンバイクエマスカ？」家主「默つてゐろ、これは文明時代の有難さだ大昔は其の日、其の日の食べものを自分で追い廻した」家主「だまつてゐろと言へば……我々の御先祖様の代々が苦心して畑を作り、田を作り、道を作りして呉れたればこそ…」家主、手を合せて拝む、家主「今日こうしてお米も食べる、大手を振つて大道を歩くことも出来る……御先祖の有難さ」家主感極まつて泣く　家主「なしなしの財布をはたいて学校を作つて呉れたればこそ、虎や八の様なろくでなしにも下手くそ乍ら字が書ける」一同唖然として顔見合せる、家主続けて弁じ立てる　家主「こうして道路があると、其れが自然的現象の様に思つてお前さんの様な親不幸者は御先祖の有難さを思わない、道を歩くにも御先祖を拝んで通れ道が歩けなかつたら困るだろう」六さん横合いから口を出した六「困らねえ!!家主「六さん乙に搦んで来るが歩かずに行けるかい」六「歩かなきやいいだろう、歩かなきやあへーんそんな事なら、自転車で行かあ」家主「混ぜつ返さないで聞け、それでだ富士市も今や誕生して、此れからが本当に文化都市の計画を進め子孫末代迄の幸福のために皆んなが力を併せなければならない時だ……だがなあ皆さん」段々声を落して表情たつぷりだ家主「近頃は税法の改正やら財界の不況やらで案外市の収入も減つて来る、五ケ年計画を曲りなりにも、遂行する為にはかなりやりくり算段しなければならない時が来るぞ。せめて我々市民が税金の納期だけ位は貢献しなければならない時だ」熟して演説調になる　家主「これこそ私達の務めなのだ重大な責任なんだ、こうしてやり逐げてこそ五十年後百年後の富士市の夢が画かれる」虎さん「ヒヤ〳〵弁士頑張れカーン」家主「兎に角お互いに富士市民の襟度を以て完納するんだな、納め易く得な方法だと云うから早速今月からでも納税組合を始めよう、どうだ皆んな」この時鶴さん頓狂な声を張り上げた　鶴「へえそりや結構で、おいら大賛成だ、ぢや家主さん完納すりや、いいんでしよう、そして道を歩く時に、御先祖を拝んで行きやいいんでしよう？」七さん案じ顔で鶴さんに注意した七「よせよせ鶴、お前そんな事して歩いて、自動車と衝突したら、どうするんだ」鶴「其の時にや……鶴の一声……あの世へ完納（棺納）ずべえ」

三十、六、十（幾見）

隊員募集

陸上自衛隊
海上自衛隊
航空自衛隊

◇**採用人員**
陸上自衛官　約六、〇〇〇名
海上自衛官　約一、〇〇〇名
航空自衛官　約一、〇〇〇名

◇**資格**
日本国に国籍を有する昭和五年七月二日生から昭和十二年七月一日生までの男子で、新制中学卒業程度以上の学力を有し、身長一五五糎以上、胸囲は身長の½以上、体重四八瓩以上の者視力は眼鏡をかけないもの〇、六以上眼鏡をかけている者〇、八以上の視力のある者

◇**待遇**
被服、食事支給、営内（艦内）居住、最初は二等陸士、二等海士又は二等空士として採用（月額六、〇〇〇円）するが順次昇進できる。

◇**志願手続**
志願者は、市役所總務課の係より志願票二通をうけとりこれに所要事項を記入の上、五円切手をそえ申込むこと。

◇**募集期間**
市役所にて目下受付中締切7月15日

◇**試験**
簡単な筆記試験（国語、数学、社会）面接試験及び身体検査を行い一日で終る。
試験　八月一日より八月十五日まで

◇**その他**
志願手続その他について、不明な点がありましたら、市役所の係に問い合せて下さい。

（總務課）

市民の声

……皆様の声をお寄せ下さい。……明るい富士市建設のため、市民の皆様の声をお聞かせ下さい。市政に関すること。生活上のこと、広報ふじについてのこと等何んでも結構ですから御遠慮なく市役所総務課広報係へ御知らせ下さい。